

タに異常は見られず、術後の副作用はなかった。

以上より、多量の出血が予想される手術症例に対して、TNGを用いた低血圧麻酔は有益で、安定な麻酔管理法と思われた。

演題12. 精神障害者の全身麻酔歯科処置症例の検討

岡村 悟, 水間 謙三*, 中里 滋樹,
千葉 寛子, 藤岡 幸雄**, 涌沢 玲児**

岩手県立中央病院歯科口腔外科
岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座*
岩手医科大学医学部麻酔学講座**

近年精神障害者に対する歯科治療において、全身麻酔の有用性を示唆する報告が多い。我々は昭和52年から昭和62年までの11年間に管理した精神障害者における全身麻酔下での歯科処置症例38例について報告した。

1. 昭和56年より症例数が増え、さらに外来での治療が増加する傾向にあった。
2. 性別では男性が女性の2倍以上で、年齢では11—30歳が中心だった。
3. 全例とも入院したが、外来より手術場で治療を行った症例で入院日数が多い傾向にあった。
4. 基礎疾患は、脳性麻痺や精神発達遅滞が多かった。
5. 麻酔は、Thiamylal-Na で導入して経鼻挿管し、GOFやGOEなどで維持する方法が多かった。
6. 治療は、抜歯が最も多かった。
7. 施術時間は1—3時間が最も多く、麻酔時間は2—4時間が最も多かった。
8. 麻酔中、麻酔後における重篤な合併症はなく比較的良好的に経過した。

演題13. 老年者と若・中年者との心機能の比較

○高橋 栄司, 小沢 正人*

岩手医科大学歯学部内科学
岩手県立一戸病院*

〔目的〕コロトコフの考案した血圧測定法は、現在間接的血圧測定法として広く活用されており、この聴診法による血圧値は、静的にとらえられたものである。コロトコフ音は、通常5相からなるが、単なる血圧測定値の情報をもたらすのみならず、左心室の収縮により拍出された血液の動的な血行動態としてとらえられるならば、それぞれの症例における循環動態および血管性状の変化などさらに多くの情報が得られるはずである。こんかい脈波コロトコフ音図を可視化できる装置（パラマ社製、CP—303S型）が開発されたので、これを用いて老年者と若・中年者との心機能の比較を行ったので報告する。

〔対象〕老年者群（62—96歳）32名，若・中年者群（19—39歳）38名の健康人を対象とした。

〔方法〕血圧（mmHg），脈波コロトコフ音時間（P—Ktime, msec），心負荷係数（PRP., SP mmHg×HR），1回心拍出量（S.V., cc/beat），毎分心拍出量（C.O., L/min），心動作指数（C.I., L/min/BSA），総末梢血管抵抗（TPR., dyne/sec/cm²），心消費エネルギー（C.P., W/h），心動作効率（C.E., %min）らをSP—303S機により記録した。なお各測定値は、3分間隔3回測定の平均値とした。

〔結果〕老年者群で、有意に脈波・コロトコフ音の延長，1回心拍出量の減少，総末梢血管抵抗の増大，心動作効率の低下がみられた。また老年者群で，心負荷係数の増大，毎分心拍出量の減少，心消費エネルギーの増大らの傾向が認められた。本装置を用いて経時的に血圧，心機能を観察することは，歯科外来における麻酔・治療中の不慮の事故を未然に防ぐことに極めて有用であると考えられる。